

# 1 国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は18ページ、三問である。)

## 受験についての注意

- 一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、監督から指示があつたら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、監督から試験開始の指示があつたら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
- 五、解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 九、試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

現代の生物学者メダワのいうように、人間までの生物は、遺伝的な組成を（突然変異と、環境によるその淘汰ちゆうたによって）ゆっくりと変えてゆくよりほかに進化の途がないのに反して、人間は、ことばによって、環境にはたつきかけたり環境の働きを受けた結果を、いわば体の外に遺伝して、進化してゆくことができる。文化の生物学的意味である。偉大な頭脳が、死によつてあとを残さず消え去ることが、よく惜しまれるが、逆に、万一、頭脳が一代に習得したものが子孫に伝わりとしたりとうである。われわれの頭は石器時代の記憶ですでにいっぱいになって、それ以上の進歩は望めないに違いない。有益なもの、承継に足るものだけは、ちゃんと、ことばや、その他の文化遺産の形で後に残るのであるから、ほかのものは消え去ることがよいのである。

人間が現われてから、進化に新しい形、すなわち、非遺伝性の、ラマルク式（一代に獲得したものが承継される）の進化が始まったというメダワの見方は、<sup>2</sup>コロンブスの卵のようなものである。そして、また、<sup>3</sup>社会を離れた人間は人間であり得ないという、狼少年の例でよく知られた事実に対応するのである。この点は大変重要である。社会を離れた自然児としての人間は、ほとんど人間とは言えないようなものであり、人間は社会の刻印を深く、そうして、生まれてすぐから受ける。それがどんなに早くから起こるかは、たとえば次のような事実からも知られるだろう。

西アフリカの部族社会の子を七歳までに近代社会につれて来て教育すると、近代社会人として誰にも劣らない能力を発揮するが、七歳以後まで、部族社会の中に埋もれていた場合、決してそのようにはならず、たとえばニケタの割算がどうしてもできないという。むしろ独立の意気に燃えて近代化のみちをあゆむ現在のアフリカ社会では、事情は変っているだろうし、今後ますます変ってゆくだろうが。

別の例では、芸術は自然に直接学ぶのであると、一般に思われているが、マルローによると、決してそうではなくて、伝統の中で、人間が次第に形づくってきたものの見方、すなわち「(X)」をとおして自然を見、芸術品を作るのだという。かれ

は古今東西の美術を用いてそのことを例証している。

しかも、人間と社会の関係は、単純な調和的な関係でも、対立関係でも、また個人を超絶しているという意味で超越的な関係でもない。<sup>4</sup>人間と社会との関係は、決して、心臓や肝臓や腎臓、つきつめればそれを構成している細胞が、人体全体に「奉仕」しているような関係ではない。

人間と社会との調和的關係は、繰り返し、夢みられてきた。中国では、それは堯舜の世である。しかし、それは決して現実のものとはならなかった。社会は何千万の人間の集まりであり、しかも過去からの巨大な「ゆきがかり」を持っており、それと一人の人間の限られた力とは、釣り合いがとれるはずはない。それだけではない。社会は、つねに、一部の人間の支配するものであり、かれらは、ほかの人間をほとんどつねに自分たちのためにこき使い、隷従させてきたからである。

<sup>5</sup>また、剥き出しの対立関係ではない。それであるにはあまりにも、個人の中に深く社会の刻印が、個人の自我のめざめ以前に打たれているからである。マルクスのいうように階級、フロイトのいうように家族関係の刻印は、ほとんど分析的な知性の届かない深みにまで打ち込まれているといわねばならない。

しかし、社会が個人を超絶した存在だとしても、完全にその中に自己を埋没させることはできない。さまざまの個人以前のものの上に成り立ちながらも、人間が人間であるぎりぎりのものは、個人の自我の主体性に求めるより他はなく、具体的には、社会はどのような個人の集まり以外の何ものでもない。人間と社会との関係は<sup>6</sup>このような、互いに矛盾した緊張関係である。

ことに資本主義社会の成立以来、社会の自己運動は、地すべりに<sup>持</sup>烈しくなり、人間と自然、人間と社会との関係が激変をこうむり、関係の変化自身が新しい矛盾、新しい緊張を作り出している。しかも、顧れば、そのように作り出された矛盾や緊張が、社会の自己運動の原動力となっているのである。そうして、資本主義の産み出した技術社会は、オートメーションの到来によって新しい段階に入り、あるいはSF小説(アイザック・アシモフなど)のいうように、社会は、「人間とロボットから成る」と定義されねばならない事態が急速に実現するかも知れない。

近代は、そうしてそれにつながる現代は、人間解放の時代であり、人間が夢想もしなかったみずからの可能性が解放された時代であると同時に、その解放自体によっていままでにない質の危機にさらされている時代である。

日本のように、近代に強制加入させられ、しかも、一旦加入するや、前近代的な遅れたものを残しながら近代的な加害者たる帝國主義国として乗り出した国では、さらに人間にかかってくる歪力は激烈であろう。大正時代に日本を訪れたパトランド・ラッセルは、一様に目を吊りあげ、肩をいからせている日本人をみて、内面と外面がつり合わなくなっているヒステリーの相だ、と言ったと伝えられる。むろん、内部でも漱石のようなすどい反省者によって、そのことは「吾人は悲しみの心をもって上すべししてゆかねばならないのである」と捉えられている。

知人である韓国の老婦人は私に、「日本人は敗けてから穏やかな顔付になりましたよ。いい顔になった」と語った。みまわしたところ、そうとも思えないが、昔はおそらくもつと凶悪な顔の人間が多かったのである。「植民地をもっている国の人間は、そのことだけでも墮落せざるを得ない」といわれるが、敗戦後の変化は、日本人にとって、やはり、大きな人間解放であり、おそらく日本人が人間的に成熟した面が多いであろうが、今日の「太平ムード」の中で、この解放されたものが、変質し、窒息させられてゆくのではないかというおそれを忘れてはならない。

もとより、歴史の中で作られたものは、歴史の中で変えてゆくよりほかないだろう。性急な英雄主義でなく、現実感覚をもった理想主義こそ必要であろう。それは、生ま身の人間のゆたかさに対応するものである。

生ま身の人間は、厚い層をいく重にもかさねもった複合体である。心臓は打ち、肺は呼吸し、腸は消化して、生命を支え、無意識的・半意識的な欲望や情緒は感覚を肉づけし、知性は分析する。全体としてみれば、ベルクソンのいうように、意識は無意識のゆたかさによって支えられているのである。たとえば、われわれが心臓や肺をたえず意識して動かさねばならないとしたら、意識の本来得意の領域、たとえば行動や思考にふりむける余力がそもそもあるだろうか。

人間の生活も同じことであろう。いかにすぐれた計画や、真剣な行動も、日常の生の、ごくふつうの意味の正常さによってゆたかに支えられるのでなければ、足もとから崩れ去ってしまうだろう。

(中井久夫「関与と観察」より)

〔注〕 ラマルク：一七四四～一八二九年。フランスの生物学者。 マルロー：一九〇一～一九七六年。フランスの作家。

アイザック・アシモフ：一九二〇～一九九二年。アメリカの作家、生化学者。

バートランド・ラッセル：一八七二～一九七〇年。イギリスの哲学者、論理学者。

ベルクソン：一八五九～一九四一年。フランスの哲学者。

問一 傍線部1はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 言語によって外界に働きかけ、またそこから得たものを、言語以外の何らかの方法で残すこと。

b 人間の進化にとって必要な事柄を、ことばなどを用いて文化という形で残していくこと。

c 脳の中に蓄えられた記憶や言語的な情報を、死ぬことによって残さず消し去ること。

d ことばを通して文化を伝える方法を、遺伝的に組み込んでいくこと。

問二 傍線部2はどのようなことのとえか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 一見、簡単そうに見えて、実は最初に発想して行うのは難しいことのとえ。

b 意図して行ったわけではないのに、結果が思いのほか良かったということのとえ。

c 意図して行ったことが、強い意志を持つことによって、成就したことのとえ。

d 一見、難しそうに見えて、実はだれでもそれを行える可能性があることのとえ。

問三 傍線部3はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 人間らしく生きるには、社会とのつながりを持ちながら、自然の中で生きていくことが大切であるということ。
- b 人間社会から完全に切り離されて育った人間は、生物学的には人間でも、社会性を持たない点で人間とは呼びがたいということ。

c 人間社会と距離を置き、自然の中で暮らすような人間は、社会との交渉を避けているという点において、実質的には人間とは呼べないということ。

d 生物学的な意味における人間性も、結局は遺伝ではなく、育った環境にほとんど依っているということ。

問四 (X)に入る語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 直感      b 五官      c 常識      d 理性      e 様式

問五 傍線部4の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 人間と社会の関係は、一部の権力者が社会全体を支配することによって成立するといった関係ではない。

b 人間と社会の関係は、人類のこれまでの進化の歴史を切り離して考えられるような関係ではない。

c 人間と社会の関係は、人体の器官のように、人間が相互に結びついて初めて社会を支えられるといった関係ではない。

d 人間と社会の関係は、人間が主体性を捨て、社会の歯車となって、一方的にそれを支えるというような関係ではない。

問六 傍線部5のように筆者が述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 一人の人間の力で社会に向き合うことは不可能で、結局社会の中に飲み込まれてしまうのがこれまでの状況だから。

b マルクスのいう階級やフロイトのいう家族関係は、知性によって分析することが困難な概念なので、社会と正面から対立する方法を人間が持てないでいるから。

c 人間の無意識の中に社会のもたらした制度がすでに深く刻み込まれているので、あらわな形で人間と社会が対立することが生じにくいから。

d 社会の自己運動が近來はげしく、その変化に人間が対応しきれないため、社会の影響から逃れがなくなっているから。

問七 傍線部6はどのような状況を意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 社会を離れて人間は人間たりえないが、社会を構成する具体的な個人は、社会からいったん自由にならなければ、自我の確立は成しえない。

b 人間が社会との調和的関係を望んでも、社会を構成する人間には、それぞれ断ち切れない歴史的な経緯が存在するため、一人一人の人間は、結局、社会に働きかける力を持ちえない。

c 人間が人間である根拠を最終的に個人の自我の主体性に求めざるをえない一方で、人間は社会の刻印を受けて人間となる側面も持っており、社会も結局のところそのような人間の集団である。

d 社会は、一部の人間が支配するものとして存在しながら、その意志とは無関係に、つねに独立した自己運動が生じてしまう。

問八 傍線部7はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a ペリーの来航以来、鎖国を解いたにもかかわらず、前近代的な政治制度を改めようとしなかったため、西洋的な文化の流入を押しとどめることができなかったこと。

b 開国により国民は解放されたが、その一方で帝国主義的な国家運営を、準備も不十分なまま、西洋から担わされてしまったということ。

c 江戸時代の政治体制を、西洋諸国からの強い干渉によって根本から改めさせられ、その結果、明治政府を樹立しなければならなくなったということ。

d 欧米列強によって、日本の意志に反して強引に開国させられ、その結果、欧米の論理にしたがって国の舵取りをせざるをえなくなったこと。

問九 傍線部8のように筆者が述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a どのような英雄的行動も、日常生活のゆたかさを直視して初めて行われるべきものであって、生ま身の人間が作る現実の社会を無視した形で理想が語られても、結局、そこには歴史的な意味は生まれないと考えられるから。

b 何を行うにしても、それを実行するのは生ま身の人間であり、複合体としての人間のゆたかな内面に背く形で行動しても、そこには必ずひずみや無理が生じてしまうと考えられるから。

c 人間が社会生活を行ううえで必要なことは、生ま身の人間のゆたかな無意識的・半意識的感覚を正常に保つところにあるのだから、それ以上の計画を立て行動に移ることは、現状では行うべきではないと考えられるから。

d 多様性を持ったゆたかな複合体として人間は存在するので、社会を構成する生ま身の人間が相互に調整しながら行動しないと、どんなにすぐれた計画も必ず企画倒れに陥ってしまうと考えられるから。



問十 本文の趣旨に合致すると思われるものを、次の中から二つ選べ。

- a 人間は他の生物と異なり、一代に獲得したものを、非遺伝的に後の世代に伝える新しい進化の形を手に入れた生物である。
- b 西アフリカの部族社会の子における事例は、その部族社会の中では社会が刻印されず、近代社会に連れてこられて初めて社会というものが刻印されるということを意味する。
- c 社会が「人間とロボットから成る」と定義される時代に至っては、人間は社会との緊張関係にたえられなくなるはずだ。
- d 韓国の老婦人が言うように、戦後日本人の顔付が穏やかになったとすれば、それは前近代的なものを引きずりながら、帝国主義国として振る舞うというひずみから解放されたからにはかならない。
- e 歴史の中で作られたものを歴史の中で変えていくということは、社会の自己運動にくさびを打ち込むということである。

二

次の文章は、平清盛の娘建礼門院(平徳子。高倉天皇中宮)に仕えた女房建礼門院右京大夫のもとに、恋人である平資盛(清盛の孫。のちに壇ノ浦で入水)からの手紙が届く場面である。資盛の弟である維盛(三位中将)、清経がいずれも入水したという訃報がこの場面の直前に届いている。これを読んで、後の問に答えよ。

ことにおなじゆかりは、思ひとるかたの強かりける。<sup>1</sup>憂きことはさなれども、この三位中将、清経の中将と、心とか<sup>2</sup>くなりぬるなど、さまざま人のいひ扱ふにも、残りていかに心よわくやいとどおほゆらんなど、さまざま思へど、かねていひしことにてや、またなにか思ふらん、便りにつけて言の葉ひとつもきかず、ただ都出でての冬、わづかなる便りにつけて、申ししやうに今は身をかけたと思ふを、たれもさ思ひて、後の世をとへ、とばかりありしかば、たしかなる便りも知らず、わざとはまたかなはで、これよりも、いふかたなく思ひやらるる心のうちをもえいひやらぬに、このゆかりの草は、かくのみみな聞きし頃しも、あだならぬ便りにて、たしかに伝ふべきことありしかば、かへすがへすかくまでも聞えじと思へどなど、いひて、

A さまざまに心乱れて藻塩草 かきあつむべき心ちだにせず  
おなじ世となほ思ふこそかなしけれ あるがあるにもあらぬこの世に

このはらからたちのことなどいひて、

B 思ふことを思ひやるにぞ思ひくたく 思ひにそへていとどかなしき  
など申したりし返事、さすがにうれしき由いひて、今はただ身の上も今日明日のことなれば、かへすがへす思ひとちめぬる心ちにてなむ、まめやかにこのたびばかりぞ申しもすべき、とて、

C 思ひとちめ思ひきりてもたちかへり さすがに思ふことぞおほかる  
今はすべてなにのなさけもあはれをも 見もせじ聞きもせじとこそ思へ

先立ちぬる人々のこといひて、

D あるほどがあるにもあらぬうちになほ かく憂きことを見るぞかなしき

とありしを見し心ち、ましていふかたなし。

(『建礼門院右京大夫集』)

問一 傍線部1「思ひとるかたの強かりける」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 兄弟の死が資盛本人の死のように痛切に感じ取られること。
- b 自分より兄弟同志の方が資盛本人の死の事情をよくのみこめるだろうこと。
- c 兄弟よりも自分の方が資盛本人の死の事情をよくのみこめていること。
- d 兄弟の死は資盛本人の死を前にしたら実感を失ってしまったこと。

問二 傍線部2「憂きこととはさなれども」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 兄弟の死は悲しいが、本人の死と比べればそれほどでもないと感じてしまうこと。
- b 兄弟の死は悲しいが、生き残った本人の方が気の毒に思われること。
- c 兄弟の死は悲しいが、残された自分に対する気配りが実感されたこと。
- d 兄弟の死は悲しいが、世間の噂の方がむしろ気になってしまうこと。

問三 傍線部3「心とかくなりぬる」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 自分から死を選んだこと。
- b 精神の安定を失ったこと。
- c 愛情が一気に冷めたこと。
- d 恋しい気持ちに気付いたこと。

問四 傍線部4「かねていひしことにてや」は、本文の少し前に「なにごともしひ捨てて、人のもとへ、さても、などいひて文やることなども、いづくの浦よりもせじと思ひとりたる」とあるのを指す。作者が告げられたのはどういうことであったのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a あなた以外の人には、もう手紙を書かないということ。
- b あなたには、もう手紙を書かないということ。
- c あなたからは、もう手紙を受け取りたくないということ。
- d あなたには、もっと多くの手紙を書こうということ。

問五 傍線部5「申ししやうに」は、本文の少し前に「よろづ、ただ今より身をかへたる身と思ひなりぬるを」とあるのを指す。どういうことを言ったのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 恋人同志だった関係を解消することにしよう。
- b これからはもう自分は死んだと思うことにした。
- c あなたのためにあなたの立場でものを思うことにした。
- d 今すぐにも出家してもの見方を変えようと思う。

問六 傍線部6「わざとはまたかなはで」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a わざわざ手紙にすることなど何もないということ。
- b 手紙ではなくわざわざ本人に会いに行くのは無理なこと。
- c 自分からはわざわざ手紙を書くとは言えないこと。
- d 自分からわざわざ安否を問う手紙は書けないこと。

問七 Aの歌にある「藻塩草」とは、塩を採取するための海藻のことである。ここでは本文のどの語句にもっとも近い意味で用いられているか。次の中から一つ選べ。

- a ゆかり
- b 便り
- c 心のうち
- d 伝ふべきこと

問八 Bの歌について述べた次の選択肢の中で、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 四つある「思ふ」「思ひ」はすべて、歌の作者である右京大夫の思いである。
- b 四つある「思ふ」「思ひ」はすべて、歌の贈り先である資盛の思いである。
- c 最初の「思ふ」は歌の贈り先である資盛の思い、残る三つは歌の作者である右京大夫の思いである。
- d 最初と最後の「思ふ」「思ひ」は資盛、二番目三番目の「思ひ」は歌の作者である右京大夫の思いである。

問九 Cの歌について述べた次の選択肢の中で、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 三つある「思ひ」「思ふ」はすべて、歌の作者である資盛の思いである。
- b 三つある「思ひ」「思ふ」はすべて、歌の贈り先である右京大夫の思いである。
- c 上句の「思ひ」は歌の作者である資盛の思い、下句は右京大夫の思いである。
- d 上句の「思ひ」は歌の贈り先である右京大夫の思い、下句は資盛の思いである。

問十 Dの歌について述べた次の選択肢の中で、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 三つある「ある」「あら」はすべて、存在する、生きるの意で用いられている。
- b 贈歌の「あるがあるにもあらぬこの世に」を受けて、右京大夫を氣遣う心情が中心である。
- c 「かく憂きこと」は、自分が死に直面していることをいう。
- d 「残りていかに心よわくやいとどおほゆらん」という右京大夫の心情に対応している。

問十一 建礼門院右京大夫の生きた時代を全く描いていない文学作品はどれか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 保元物語
- b 宇治拾遺物語
- c 平家物語
- d 新古今和歌集
- e 今昔物語集

三

次の文章を読んで、後の間に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

夫趣得<sup>ハ</sup>之<sup>ル</sup>自然<sup>ニ</sup>者深<sup>ク</sup>、得<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>学問<sup>ニ</sup>者浅<sup>シ</sup>。当<sup>リ</sup>其<sup>レ</sup>為<sup>ル</sup>童子<sup>也</sup>、不知<sup>レ</sup>有趣<sup>也</sup>。

然<sup>レ</sup>無<sup>シ</sup>往<sup>トシテ</sup>而非<sup>ザルハ</sup>趣<sup>ニ</sup>也。面<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>端<sup>ニ</sup>容<sup>一</sup>、目<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>定<sup>睛</sup>、口<sup>ニ</sup>喃喃<sup>ニ</sup>而欲<sup>シ</sup>語<sup>ラント</sup>、足跳

躍<sup>シテ</sup>而不<sup>レ</sup>定<sup>マラ</sup>。人生之至樂、真<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>下<sup>ニ</sup>踰<sup>ル</sup>于<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>時<sup>ニ</sup>者<sup>上</sup>。孟子<sup>ノ</sup>所謂<sup>ク</sup>「不<sup>レ</sup>失<sup>ハ</sup>赤子<sup>ニ</sup>」、

老子<sup>ノ</sup>所謂<sup>ク</sup>「能<sup>ク</sup>嬰<sup>ル</sup>兒<sup>ニ</sup>」、蓋<sup>シ</sup>指<sup>ス</sup>此<sup>ヲ</sup>也。趣之正等<sup>シ</sup>正覺<sup>シ</sup>・最<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>乘<sup>也</sup>也。山

林<sup>ノ</sup>之<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>、無<sup>ク</sup>拘<sup>カカハルコト</sup>、無<sup>ク</sup>縛<sup>ラルルコト</sup>、得<sup>ニ</sup>自<sup>ニ</sup>在<sup>ニ</sup>度<sup>日</sup>。故<sup>ニ</sup>雖<sup>ドモ</sup>不<sup>レ</sup>求<sup>メ</sup>趣<sup>ヲ</sup>而趣<sup>シ</sup>近<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>。愚不

肖<sup>ノ</sup>之<sup>ハ</sup>近<sup>キハ</sup>趣<sup>ニ</sup>也、以<sup>テ</sup>無<sup>キ</sup>品<sup>也</sup>。品愈<sup>イヨ</sup>卑<sup>シ</sup>。故<sup>ニ</sup>所<sup>レ</sup>求<sup>ムル</sup>愈<sup>イヨ</sup>下<sup>ル</sup>。或<sup>ハ</sup>為<sup>ル</sup>酒肉<sup>ト</sup>、或<sup>ハ</sup>為<sup>ル</sup>声

伎<sup>ト</sup>、率<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>而行<sup>ヒ</sup>、無<sup>シ</sup>所<sup>ニ</sup>忌<sup>スル</sup>憚<sup>一</sup>。自<sup>ラ</sup>以<sup>テ</sup>為<sup>ス</sup>絶<sup>ツト</sup>望<sup>ヲ</sup>於<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>。故<sup>ニ</sup>拳<sup>ゲテ</sup>世<sup>ヲ</sup>非<sup>ゴ</sup>笑<sup>ヲ</sup>之<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>顧<sup>ミ</sup>

也。此又<sup>タ</sup>一<sup>ノ</sup>趣<sup>也</sup>。迨<sup>オヨビテ</sup>夫<sup>ノ</sup>年漸<sup>ク</sup>長<sup>ジ</sup>、官漸<sup>ク</sup>高<sup>ク</sup>、品漸<sup>ク</sup>大<sup>ナ</sup>、有<sup>ル</sup>身<sup>如</sup>桔<sup>ノ</sup>、有<sup>ル</sup>心<sup>如</sup>

棘<sup>ノ</sup>、毛孔骨節<sup>俱</sup>、為<sup>ル</sup>聞見知識所縛<sup>ル</sup>。入<sup>ル</sup>理愈<sup>イヨ</sup>深<sup>シ</sup>。然<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>趣愈<sup>イヨ</sup>遠<sup>シ</sup>矣。

〔注〕○晴一ひとみ。○不失赤子一「孟子」離婁下に「大人者、不失其赤子之心者也」と見える語。○能嬰兒一「老子」に「專氣

致柔、能嬰兒乎」と見える語。○正等正覺一完全な悟り。○最上乘一もつとも優れた教え。○声伎一歌舞芸能の

類。○栝一手かせ。

問一 傍線部1「当其為童子也、不知有趣」の書き下し文としてもつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 当に其れ童子たるべくして、趣有るを知らず。
- b 当に其の童子なるが為に、趣有るを知らざるべし。
- c 其の童子の為にするに当たるや、趣有るを知らず。
- d 其の童子たるに当たるや、趣有るを知らず。

問二 傍線部2「端」と同じ字義で用いられているものはどれか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 端緒
- b 端倪
- c 端坐
- d 端的



問三 傍線部3「喃喃」、4「度日」、6「率心」とはどのような意味か。それぞれ次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

3 a 同じ話を何度も繰り返す様子。

b とりとめのないことを言い続ける様子。

c 気の利いたことを言う様子。

d 大声で泣きわめく様子。

4 a 日々を過ごすこと。

b 時刻を知ること。

c 一日の長さを調整すること。

d 計画的に行動すること。

6 a 心を厳しく律すること。

b 他人を指導する立場に立つこと。

c 心を自由な状態に保つこと。

d 思うとおりに振る舞うこと。

問四 傍線部5「之」は何を指すか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 山林之人      b 孟子・老子      c 愚不肖      d 童子

問五 傍線部7「絶望於世」とはどういうことか。次の中からもつとも適切なものを一つ選べ。

- a 俗悪な趣味のはびこる世間に明るい未来はないと悲嘆にくれること。
- b 学識・人格ともに欠けている自分に仕官はできないと観念すること。
- c 自分はしよせん世間には受け入れられない人間だとあきらめること。
- d うわべばかりを飾ろうとする世間の偽善者たちにあきらはてること。

問六 傍線部8「俱為聞見知識所縛」に返り点を施した次の選択肢の中から、もつとも適切なものを一つ選べ。

- a 俱為<sub>レ</sub>聞見知識所<sub>レ</sub>縛。
- b 俱為<sub>下</sub>聞見知識所<sub>上</sub>縛。
- c 俱為<sub>レ</sub>聞見知識所<sub>レ</sub>縛。
- d 俱為<sub>レ</sub>聞見知識所<sub>レ</sub>縛。

問七 本文の内容と一致するものはどれか。次の中から一つ選べ。

- a 「趣」は自然の中にこそ宿るものであるから、山林に遁れ<sup>のが</sup>隠者のように暮らさなければ感得することはできない。
- b 「趣」は知識や品格とは関係のないものであるから、低俗な趣味を持った愚者小人にも味わうことは可能である。
- c 「趣」をもつともよく理解しているのは子供であるから、常に子供のような純真さを保っていなければならない。
- d 「趣」を感受するには自由な精神が必要であるから、常識的な価値観を顛倒<sup>てんとう</sup>する老荘思想を学ぶことが望ましい。